# 青年海外協力隊マレーシア会

**会報　第５号**　　発行　　2013.12.20


## 変化するマレーシアの影絵芝居ワヤン・クリッ


ムティアラ・アーツ・プロダクション
東南アジア芸能コーディネーター
上原　　亜季

多様な文化が共存し、西洋や中東の影響も受けてきたマレーシアの芸能はソンケットのように色鮮やかで豊かです。村の娯楽や儀礼の一部として演じられてきた芸能が時代の変化や環境に合わせて様相を変えるのは日本でもマレーシアでも同じこと。新しいものを取り込み、伝統の形に織り込んでいくのは生きた伝統文化の真の姿かもしれません。私は 2003 年頃からマレーシアの芸能、主にワヤン・クリッの研究をしてきましたが、この 10 年間でもそれらはゆっくりと変化してきていることが感じられます。

ワヤン・クリッはジャワやタイから伝わったもので、マレーシア特有のものではないと言われることも多いのですが、人形や語られる言葉、太鼓などの打楽器中心の楽団を見ると、やはりマレーシアに伝わり、その地に根付いたマレーの芸能になっているのです。私の研究対象で、ケダ州に現存するワヤン・クリッ・ゲデッでは、タイ南部の人形の特徴を残しつつマレーのイスラム社会を描くため新しいムスリムの人形などが作られています。ストーリーもインド叙事詩などとは関係なく、社会情勢や社会問題を題材にしています。スピード違反取締りのテーマでは、2 人の道化が大きなバイクに乗って突っ走り、警官に捕まってしまうなど、そのやり取りが観客の笑いを誘うのです。

第二回総会で講演されている上原亜季さん

最近では、『スター・ウォーズ』を題材に作られたフュージョン影絵プロジェクトもあり、精巧に作られた登場人物の人形も注目を集めているようです。人形やストーリーは新しくても、人形の遣い方や音楽には伝統のスタイルが見受けられるのが面白いところです。影絵芝居を見る機会も減っている中で、若者たちの関心を惹くために新しい形を追い求め、試行錯誤が続くのでしょう。それでも、やはり新しい形とともに伝統的な形も保存継承されていくことを私は願っています。

# ＮＰＯ法人「ＳＶ経験を活かす会」のご紹介

理事　鈴木　秀秋

本会は、JICA シニア海外ボランティアや日系社会シニア・ボランティア経験者を中心とした NPO 法人です。　現在会員は約１５０名程です。

国際ボランティアとして働く人々の後方支援や日本国内における啓蒙などの各種ボランティア活動を通じて、国際協力や国際理解の増進を目的に、2004 年(平成 16 年)1 月に任意団体「シニアボランティア経験を活かす会」として設立されました。

その後、2005 年(平成 17 年)11 月に特定非営利活動法人(NPO 法人)の認証を受け「シニアボランティア経験を活かす会」と称し、現在にいたっています。

会員資格は，必ずしもシニア海外ボランティア経験者のみに限りません。広く国際理解、国際協力の分野に関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。

国際協力の活動、社会教育の推進を図る活動 を中心の柱に、上記目的の達成のため、青年海外協力隊やシニア海外ボランティアに対する後方支援活動、小、中、高等学校などの各種教育機関等での研修や講演会への講師派遣など様々な事業を展開しています。

具体的な活動としてはボランティア体験を社会へ還元することを理念に国際理解、環境、キャリア教育などの出前講座（写真）、日本語が不自由な多国籍小中学生への日本語学習支援、シニアボランティアによる活動の報告及び赴任国情報の体験発表会、ＪＩＣＡシニアボランティアを目指す人のための募集説明会時の体験談＆説明会、シニアボランティアを目指す人のための個別相談を行うなんでも相談会、最近帰国したシニアボランティアの報告を行う帰国報告会です。　そのほかにも各種イベント（グローバルフェスタや横浜フェスティバル等）（写真）に参加し広報活動をしております。

# ペナン島でのロングステー

58年２次　建築施工　小林　広

今年１０月でペナンにロングステーして、すでに１年が過ぎ、今思えばここペナンに住もうと思ったのは５５才の時、初めて手術入院し、定年後の生活を考える機会を与えられました。その後マレーシア会の集まりがあり、最近のマレーシアの現況やエアーアジアの利用などの話を聞き、その年エアーアジアＸが羽田から就航が決まり、気持ちが強くなり、年末の冬休みを利用してペナン島へ行く準備をしました。それと同時にロングステーの条件やペナン島の状況やロングステーのブログ等を調べ、いざＫＬではＬＣＣターミナルでの国内線の乗換えに戸惑いました。ペナン島の状況は協力隊時代に近くのアロールスターにいましたので、何回もペナン島に行って、知っているつもりでした。現地の業者に連絡し、日本語対応でコンドミニアムの見学をし、後は自分の足で市場、銀行、ショッピングモール等を確認し、状況を確認しましたが、３０年前と比べるとＫＬほどではないが都市化が進んでいるのにびっくりしました。一般的日本人ですと日本で旅行社が行う下見ツアーに参加して、ＫＬやジョーホール、ペナン島、コタキナバル等を比較・検討し、気に入った場所に何回か滞在して決めるようです。私の場合は馴染みの場所で迷うことなくペナン島しか考えませんでした。知っている場所はなんといっても安心感と愛着があります。

次の年は東日本大震災があり、その影響で私の会社では早期希望退職の募集が始まり、私は定年間近でもあり応募する事に決め、５８歳の３月に退職し、１０月のペナン島への引越しを予定に、ペナン島のMM２Ｈビザ取得代行業者とインターネットで書類のやり取りを行い、その間東京の病院、歯科医へ通いできるだけ治療し、一度ペナンへ行き、銀行口座を開き、コンドミニアムを決めてきました。エアーアジア（羽田～ペナン）でキャンペーンを利用し、往復は５万円以下ですみましたので、30年前と比べると半額以下です。

ペナン島北部ジョージタウンの海岸側に建つ高層コンドミニアム・ホテル

自宅バルコニーから望む半島側かの上る朝日

ペナン島への引越し後は小さい問題はありましたが順調にいきました。私のいるコンドミニアムは４０階建てで、すべて３ＬＤＫ風呂場２箇所です。ペナンのコンドミニアムは３ＬＤＫ以上で私のような独身者用に１ＬＤＫとか２ＬＤＫはありません。大は小をかねるという事です。住民は日本人、華人、白人、インドネシア人で、特に目立つのがインドネシア人の医療ツーリストで滞在している人です。家族で来て、近くの私立病院に通っており、入れ替わりが激しいのです。インドネシアの人の会話は協力隊で学んだマレー語が役立ちます。買い物については隣がショッピングモールでスーパー・日本レストランもあり、徒歩圏に郵便局、銀行、朝市、日本食材店、地元の屋台や食堂があり、一度にまとめて用が済ませますので、東京に住んでいたときより便利です。そして生活費に関しては私の場合今年に入って月１２万円程度で済んでおります。しかし為替変動の影響は大きく、昨年は１マレーシアリンギットが２５円でしたが、今年は３０円ぐらいで２割高くなっています。

病院に関して、外国人は私立病院に行く事になりますが、ペナン島には大きな私立総合病院があり、私の通っている病院は近くで、日本語で対応してくれ、診察の間、通訳が立会い説明してくれます。最後の薬の受け渡しと会計まで立会い説明してくれ安心です。東京でも高血圧で総合病院に通っておりましたが、予約しても、１～２時間待たされ、調剤薬局で１時間待たされ、必ず半日は必要となりました。金額は保険なしで考えれば日本の半額ぐらいになります。私は東京の総合病院より気に入っております。

次に何をして過ごすかですが、ペナン島に日本人会があり、サークルがあるようですが、企業の駐在員が多いというので加入しておりません。私は体力づくりを目標に午前中はウォーキングと水泳、頭の運動に午後は週２回の語学のレッスンを受けています。夜は本を読んだりテレビを観たりします。テレビは衛星でＮＨＫが観られます、民放は画像が良くありませんがインターネットで見られます。こちらでのスローライフがあっているように思え。協力隊時代に行けなかった近隣諸国へも行きたいと考えており、しばらくはペナンでの生活を続けようと考えております。

マレーシアのロングステーに関する最新情報（日本語ホームページ）

マレーシア長期滞在に関するページ：http://www.big.or.jp/~aochan/zaiju/zaijumain.htm

南国新聞　：http://www.nangoku.com.my/

## OVは今　アジアの小娘がアラブの春を通りぬけ、ヨーロッパのマダムになる・・・という人生

平賀牧恵（平成元年度 1 次隊　日本語教師）

・・・などというタイトルを思いつきで書いてみたのですが、今それをまじまじと見て「なんか、そのまんまじゃん。これが全てって感じ。」と思わずつぶやいてしまいました。

1989 年の 7 月に、『平成元年度 1 次隊』という区切りがよく縁起もよさそうな隊次の日本語教師として**マレイシア**に赴任したのはもう 24 年前のこと。当時「新卒」でも「退職・休職」でもなく、「休学」という身分で参加していた私は、明らかにツワモノたちの中に間違って紛れ込んでしまった女の子―小娘―でしかありませんでした。

Jln.Damai の隊員ドミでの歓迎会で「今回から日本語教師の路線、変えることにしたのかしらね？」という先輩隊員の素朴な感想が聞こえてきたのも、当然といえば当然でした。

教育実習などもしておらず、とにかくまだ一度も教壇というものに立ったことがないくせに、マレイシアの由緒ある教育機関で「日本語」を教える、という形で「先生デビュー」してしまったその小娘は、専門知識もなければ教室コントロールとやらも未知の世界で、それはそれは一言では語り尽くせない 2 年間を送りました。自転車操業ならぬ一輪車操業的な日々に体中のエネルギーが吸い取られ、その割りには世の女性隊員路線を忠実に守り、外見だけはどんどん（横に）大きくなり。また学校の休みとなれば何かに取り憑かれたようにマレイシアの端から端まで飛び回って遊び・・・そんな 2 年間を終えて帰国したのは、小娘、24 歳の時でした。

帰国直後はもう日本語教育の世界に未練はなく、と言うか「私にはもう無理。」という心境でしたが、北海道の大学に復学し教員採用試験を受けたもののみごとに不合格となったあたりからちょっと状況が変わり始めました。「きちんと勉強さえすれば、私もそれなりの日本語教師になれるかも。」　そうして広尾の事務局で働かせてもらいながら初めてまともに“日本語教育”というものを学び始め、じわじわとこの世界に。その後、国際交流基金からの派遣で再度中等教育機関で教える機会を得た**インドネシア**でその楽しさに目覚め、帰国後大学院へ。修了後は再び国際交流基金の派遣で**マレイシア**のマラヤ大学へ。この 2 度目のマレイシアは、隊員として最初に赴任してからちょうと干支で一周りしており、小娘は小娘なりに（ってかもう 30 半ばでしたが^^；）　成長・・・していたはずなのですが、

まぁ色々あって、ここでとりあえず一区切り、と相成りました。

マレイシアの任期を終えて「帰国報告会」を済ませると、「婚姻届」なるものを提出して**モンゴル**へ。

同じく国際交流基金の専門家として日本語を教えていた隊員 OB(3 年度 3 次隊モンゴル・日本語教師)と結婚したアジアの小娘は、アジアのプチ・マダム（？）として新婚生活や初めての子育て生活をモンゴルで送ったのでした。

帰国後しばらく日本で生活したものの、2008 年からは**ベトナム**生活がスタート。家族は 4 人に増えており、2 年間のベトナム生活はまだ小さい子供を抱えての「子育てエンジョイ生活」でした。

つつがなく終わったベトナム生活の次が**エジプト**（2010 年～）。

これがまた思いっきり当たり年だった・・・という表現が適切かどうかはわかりませんが、皆さんも御存知のように 2011 年 1 月より色々と騒がしくなってしまったこの国から、我が家は二度も「退避帰国」というものを経験してしまいました。同じ国からの二度に渡る退避帰国。そして、その二度目が事実上の「本帰国」となってしまい、私たちはなんだか訳のわからないまま悠久のナイル、永遠のピラミッドとお別れしたのですが、その頃には、実はすでに夫の次の赴任地が決まっておりました。

それがここ、**ハンガリー**。 そう。初めてのヨーロッパ。これまで住んだ国は「アジアの仲間」、あるいは「イスラム圏」という何か共通のものがあったのですが、その路線からついに外れました。

ハンガリーの首都ブダペストに着いて今日で 16 日目。小学生になった子どもたちは元気に「日本人学校」に通っています。明日、カイロからの荷物がこのブダペストに家に届く予定なので、まだしばらくはバタバタしそうですが、それでも公共の交通機関も整っているし、やはり色々な意味で基盤のしっかりした国のようなので、生活に慣れるのにもそれほど時間はかからないような気がします。

そういえば、ヨーロッパの駐在マダムは家のことは全部自分でやるんですよね。“お手伝いさん”なんていないわけだし。 そうそう、初めてと言えば「隊員がいない国」（2007 年に終了）に住むのも今回が初めて。

この歳になってもまだまだ「初めて」のことがいくらでも経験できる生活ってとってもありがたい・・・なんて思いながら、ドナウの真珠と言われる美しい街ブダペストで、家族と一緒にこれからやってくる本格的な冬を迎えようとしています。

## マレーシア会第２回総会報告

２年ごとに実施しているマレーシア総会の第２回目が９月22日（日）ＪＩＣＡ市谷で開催されました。85名のOB・OGの他にお子様、来賓等の総勢94名の参加がありました。総会・講演・懇親会の３部構成で行われました内容は次の通りです。

**総会**　白山会長の挨拶の後、事務局より第１期の活動報告、会計報告、第２期活動計画、役員改選の案が発表され審議の結果、承認されました。シニアボランティアの加入について、質問がありましたが、後日の役員会で加入を認めることとなりました。

**講演**　初めに、藤原講平さん（H.22年２次、体育）の帰国報告がありました。クランタンの障害者施設で新しいアクティビティを通して、人々との交流を深めていった報告が印象的でした。続いて、上原亜季さん（マレーシア芸能研究家）によるマレーシアの伝統芸能についての講演がありました。上原さんの学生時代からのマレーシア体験そして伝統芸能との関わりは興味深い話でした。本場のワヤンクリットの公演もあり、マレーシア気分を味わせてもらいました。

**懇親会**　来賓の「協力隊を育てる会」の足立会長の挨拶、乾杯のご発声により懇親会が行われました。途中、高橋副会長から「マレーシア会ロゴマークの投票について」、杉山クルミさん（S.58年２次、幼稚園教諭）から「マレーシアロングステイビザの取得紹介」の話がありました。懐かしい面々との懇談が進む中、約２時間の懇親会はアッという間に終わりとなりました。（報告　坂部修一）

### ≪ロゴマーク総選挙≫

マレーシア会員の皆様こんにちは！　９月の総会当日の会場において、ご出席頂いた皆様に４つの「ロゴマーク」の中から、２つ選んでシールを張って投票していただき、『(仮)マレーシア会専用ロゴマーク』が決まりました！(写真参照)このロゴマークは、マレーシアの地図と国花のハイビスカスを用いデザインされています。選ばれた「ロゴマーク」は、シンプルですが今後は色とりどりの美しいスタンプとして、会報を入れた封筒に押され皆様の自宅にお届けします。　きっと「あっ、マレーシア会からだ！」と、気付いていただけるものと期待しています。さて、本日は私達の「ロゴマーク」お楽しみいただけましたか？　**写真は次ページです**　（報告　高橋明美）

ロゴマーク

**グローバルフェスタ 2013**

10 月 5 日、6 日の 2 日間、日比谷公園でグローバルフェスタが開催されました。当会も設立後初めて出展致しました。初日はあいにくの雨でしたが、多くの方がマレーシア会ブースを訪れてくださいました。ブースで、会場で、多くの新しい出会い・懐かしい出会いがあり、意義深いイベントでした。
毎年出展する予定です。ブース企画を募集しています！

マレーシア会ブースの前の人だかり

**☆原稿募集☆**

会報への原稿を募集しています。ＯＶは今のコーナー他、会員の皆さんに発信したい内容を文章にしてお送りください。

**お願い**

住所やパソコンメールアドレスなど個人情報の変更があった場合は、事務局（右記の住所・メールアドレス）までご連絡ください。

**寄付のお礼とお願い**

前回会報以降、下記の方から、ご寄付いただきました。

大西益吉郎（49-2）、中野宏（42-2）、堀田悦史（48-1）、吉田曜子（61-1）、杉山クルミ（58-2）、在京役員会（敬称略）より、計 33,000 円の寄付をいただきました。ありがとうございました。

活動費として大切に使わせていただきます。

なお、寄付は随時受け付けています。今後ともよろしくお願いいたします。

郵便局記号：10140　番号 51611341
（郵便局外から振り込みの場合：店番 018、普通口座　5161134　です）
口座名義人：青年海外協力隊マレーシア会
代表　白山　肇

マレーシア会は国際協力サロン内に事務局を置きます。なお、この会報は青年海外協力隊マレーシア会会員と 2010 年の青年海外協力隊 OB/OG 会出席者に E メールもしくは郵送の形でお送りしています。配信を希望されない方はご連絡ください。また、会員は現在 470 余名ですが、まだ、会員登録されていない方には、是非マレーシア会のことお知らせください。

発行　青年海外協力隊マレーシア会 会長 白山肇
162-8433　東京都新宿区市ヶ谷本村町 10-5
JICA 地球ひろば　メールボックス 51
TEL：　090-7186-1065（国際協力サロン）
MAIL：malaysia@ics-together.com